

アスピレータインの麓でくつろぎのひとときを



「若い人が『珍しい』って言うて、みんなスマホを向けてくるよ」と声を弾ませるのは、八幡平アスピレータインの玄関口にある「松尾八幡平物産館あすびーて」前で、来訪者にサイフォンの式^{※1}のコーヒー販売を始めて23年になる菊池春夫さん。「お客さんの目の前で、サイフォンからコーヒーを注ぐととても喜んでくれる」と目を細める。

20代の頃、都会でバーテンダーとしての修行を積み、帰郷後は、柏台でスナックを営んでいた。一つの場所で、昼はレ

ストラン、夜にはスナックを営業しようとして、前もって購入していた土地に自宅兼レストラン「LAM^{※2}」をオープンすると、メニューのコーヒーは、自身こだわりのサイフォン式に決めた。「私ね、学生のときに、気取ってさ、自分でサイフォン買ってコーヒー淹れてたんだよね」と当時を振り返る。

平成16年に、レストラン業務のほとんどを後継者に引き継ぐと「自分は、自分ができること」と、松尾八幡平物産館あすびーての組合に加入し、

物産館前に店を開いた。販売するのは、オリジナルブレンドの豆と日本名水百選「金沢清水」の湧水を使い、サイフォンで抽出するこだわりの一杯。「八幡平コーヒー」と名付けた。

器具をセットすると、ポコポコと湯が沸く。ガラスコから蒸気が上がり、ロート内に広がる琥珀色のゆらめきに、じっと目を見逃すと、苦味が出たり、酸味が強くなったりする。目視での見極めが大事と、控えめながらも力が込められる。

菊池 春夫 さん

八幡平コーヒー 店主

きくち・はるお 〓 柏台二丁目 〓

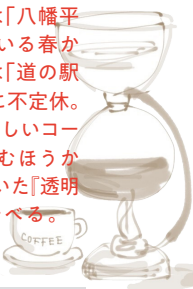
今では、ドライブの途中にわざわざ立ち寄ってくれるファンも多く「ついさっきも、リピータのお客さんが、声を掛けてくれた」と声を弾ませる。「いろいろな人と、顔を見ながら



お客さんの目の前で、サイフォンからコーヒーを注ぐ菊池さん(左)

話ができるから、立ち仕事も苦じゃないね」と菊池さん。「もう歳だから、新しいことに取り組もうって言うよりは、目の前のコーヒーに没頭するだけ」とも。「市を訪れたら、ここで、ほっと一息ついてほしいし、自分が淹れるコーヒーのとりこになんてくれればうれしいかな」と菊池さん。飾らない笑顔で、今日もお客さんを迎える。

南寄木出身。八幡平コーヒーは「八幡平物産館あすびーて」が開館している春から秋までは同施設前で、冬季は「道の駅にしね」で提供している。ともに不定休。趣味を尋ねると「これが趣味、おいしいコーヒーを淹れること。でも、本は読むほうかな。今は東野圭吾さん」と、置いていた「透明な螺旋」を引き寄せ、笑みを浮かべる。



【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

耳鳴り、耳の聞こえの悪さ、皮膚の痒み
 コミュニティバス「八幡平中央整形」バス停そば
漢方のあさひ薬局
 八幡平市大更25-118-1 ☎0120-204077

編集後記

▽運動会、消防操法訓練大会、中総体、消防演習と、毎年この時期は、いつも以上に土日が大忙し。これまでの中総体では、懸命にボールを追う姿に心打たれ、想像できないような大逆転劇など、鳥肌の立つような場面に何度も遭遇しました。取材後の編集作業は一苦労ですが、どんなプレーが見られるか今年も楽しみです。▽キラリで菊池さんを取材。サイフォンを使い、コーヒーを抽出する作業を、初めて間近で見学しました。ガラスの中にじんわりとコーヒーが満ちていく様子に、思わず釘付けになってしまいました。自分のために淹れてもらった一杯が、とても贅沢なものだと感じました。

※広報はちまんたい6月11日号(No.372)の印刷経費は1部113.05円、発行部数は9,417部です。経費の一部は広告料で賄われています。広告掲載は、株式会社総合広告社(☎019-626-3370)まで。

